

「もばら生活ガイドブック」2018年版を発行します

市の情勢情報や公共施設、医療機関等の情報をまとめた「もばら生活ガイドブック」を、市と(株)ゼンリンが協働で発行します。配布は12月頃を予定しており、市内全世帯に順次無料で配布します。

本ガイドブックは、市と同社の官民共同事業により作成されるもので、発行・配布に要する費用は、市の予算をかけずにすべて広告掲載料で賄われます。

◆「もばら生活ガイドブック」に掲載する広告を募集します！

(株)ゼンリンの社員が企業、事務所、商店などを訪問し、広告掲載を募集します。ガイドブックの内容は秘書広報課に、広告掲載については(株)ゼンリンにお問い合わせください。



▲前回の生活ガイドブック

お問い合わせは、秘書広報課（3階） ☎(20)1512、FAX(20)1601、
 (株)ゼンリン千葉営業所 ☎043(261)0043へ。

市長が行く

災害列島逃げるが勝ち

No.101

茂原市長 田中豊彦



今回西日本を襲った豪雨は、広島県や岡山県等に、記録的な犠牲者を出し、いたるところにその爪痕を残していきました。以前から地球温暖化に伴う台風の強大化とゲリラ豪雨による被害の拡大は、日本全国で心配されてきました。もはや、さまざまな自然災害に対し、ここは大丈夫という場所はどこにもないように思われます。

私たちは、自然の脅威に対し人間がどれほど無力であるかというのを、あらためて肝に銘じるべきなのでしょう。人間がダムを造ろうが、堤防を造ろうが、そんなものは小手先の防衛に過ぎないと、まるであざ笑うかのように、自然の力はあつという間に流し去っていききました。今回の災害でそれを強く感じたのは私ばかりではないでしょう。

この茂原市でも、平成元年、平成8年と激甚災害に指定さ

れるほどの水害に見舞われ、多くの被害を出してきました。また、平成25年にも、一宮川の溢水による甚大な被害が出たことは、記憶に新しいところです。

これまでの再三にわたる被害の経験から、少しでもそれを防ごうと、一宮川の堤防のかさ上げ工事や、いくつかの調節池の設置等も進められてきました。しかし、今目前の脅威に対して、実際に何が一番重要な課題かと言えば、「市民が安全に避難できること」ではないでしょうか。

幸いにして、一昔前よりも格段に正確になった気象予報をもとに、油断することなく、早めの避難指示を出すこと。そしてそれを迅速に周知させるためにはどうするか。水の備蓄と供給。いつも災害のたびに過酷な条件の避難所が報道されるが、より快適な避難施設ができないものだろうか



▲災害への備えを確認しておきましょう

かということ。病人や高齢者のための十分な薬の供給と手厚いケア。あらゆる角度から避難ということを見つめ直し、備えていかななくてはならないと考えます。災害が起こったときに慌てて災害対策本部を立ち上げるのではなく、普段から準備を怠らないこと。これからは、このような意識のもと、災害に備えた対応を検討し直していきたいと思っております。

もうすでに検討しだしていますが！